

2006年
世界パワーリフティング選手権大会
(ノルウェー国スタバングル市)
報告書

はじめに

岡山大学ウェイトトレーニング部主将の岡村聡晃(法4回生)です。私は2006年11月6日~11日の6日間、ノルウェー国スタバングル市にて行われた世界パワーリフティング選手権大会に出場してきました。これより私が体験してきた貴重な体験を報告していきますのでお楽しみ下さい。



2年連続最年少出場の岡村

まず、この世界大会に出場する資格というのは非常に狭き門です。毎年1度行われる全日本パワーリフティング選手権大会において優勝することが必要となります。昨年は2位となりましたが、日本選手団に欠員が出たため参加することができ、今回で2年連続2回目の出場となりました。ちなみにパワーリフティングとはスクワット・ベンチプレス・デッドリフトの合計挙上重量を競うものです。この競技のパフォーマンスのピークは30代後半から40代と言われており、今回の選手団も平均年齢は30代半ばであり、23歳の私は2年連続の最年少出場でした。



2006年一般日本代表

ノルウェー

今回の移動時間は、岡山→(約2時間)→伊丹空港→(約1時間)→成田空港→(約13時間)→デンマーク国コペンハーゲン空港→(約1時間)→ノルウェー国スタバングル空港というもので計17時間(乗り継ぎの時間を含むと軽く20時間超!!)と非常に長いものでした。ノルウェーと日本との時差は8時間で、平均気温約10℃と少し肌寒いものでした。大会期間中はほぼ毎日曇りのち雨、ところによりみぞれという悪コンディションでした。また、物価は非常に高く500mlのコーラが300円、Lサイズ(2~3人前)のピザが5000円と非常に食事に困る環境でした。ちなみに有名なノルウェーサーモンは高級品でマリネ1人前2000円ほどでした。



美しいノルウェーの朝焼け

最高のステージ

そんな悪環境に落ち込んでいる中、大会会場に足を運んでみるとそんな気分は一気に吹き飛んでしまいました。見事にショーアップされているステージ!そこから180度見渡せる観客席!7面にも及ぶ新品の器材で構成された夢のようなアップ場!ラップドライバーや霧吹きが常駐しているきめ細かなサービス!今まで5回の国際大会を経験してきましたが完璧です。国によってはアップ場さえ十分確保できないところもあるため、ここまで充実した会場で戦えるのは本当に幸せです。



地元選手に観客は総立ち!!

日本選手メダルラッシュ

昨年発覚したドーピング問題により今年、来年とロシアとウクライナが不参加となった今大会は日本選手が大活躍した。女子 48kg 級福島選手と男子 56kg 級伊差川選手が見事優勝！！さらに種目別では日本のお家芸であるベンチプレスにおいては金 5 銀 2 銅 2 という素晴らしい結果でした。

また、その裏にはセコンドがいて世界大会では選手同士が助け合うのが基本なのですが、岡山大学の人は安心できる、実力が出せるといった声を多くいただきセコンド力を褒めていただき嬉しかったです。



53 歳で世界一般の頂点に立った伊差川

リベンジオブザイヤー

昨年は一般の大会に初めて参加させてもらいましたが、ジュニアメンバーの不在や世界トップクラスのレベルの高さに完全に浮き足立ってしまいあえなくベンチで失格してしまいました。世界の悔しさは世界で返すと意気込んだ今年はスクワット 2 本成功の 280 k g とまわずの出だし。お次は 9 月の世界ジュニアで金メダルを獲得したベンチプレス。1, 2 本目を確実に取って自己ベストの 222.5kg。3 本目に金メダル狙いの 230 k g に挑戦するもあえなく失敗となり、種目別 4 位に終わりました。最後は最近不調のデッドリフトだがようやく戻ってきて軽く 3 本成功の 290 k g。結果は自己 2 番目のトータル 792.5 k g で 9 位と満足できるものでした。



ベンチ暫定 1 位にハイポーズ

最後に

今回の世界大会は自分にとって、とても大きな転機となりました。9 月の世界ジュニア直後、父が亡くなり全くモチベーションが上がらない状態が続いていました。そんな中、顧問の三浦先生やコーチングスタッフ、後援会の方々、多くの部員たち、そして家族に励ましてもらうことによって、やっとの思いで試合に辿り着くことが出来ました。多くの支えがあってこそ自分が存在しているのだと感じることが出来、人間として大きく成長してきていると思います。

次は多くの方々に私が恩返しをする番だと思うので、これからも私はパワーリフティングを続けていきます。そして、日本を代表する選手となって世界で戦い続けたいと思います。自慢の息子であり続けるために・・・。



これからも皆さんの期待に応えていきます

今回もこのような沢山の貴重な経験を積む機会をご支援いただきまして、OB・OG さんや後援会並びにコーチングスタッフ陣の皆様本当にありがとうございました。今までの経験を生かし、更なる部員のレベルアップに尽力できるよう邁進していきますので、今後ともかわらぬご指導ご声援を頂けます様、宜しく願いいたします。本当に応援ありがとうございました！！



レセプションにて満面の笑みの岡村

<文責 岡村聡晃>